

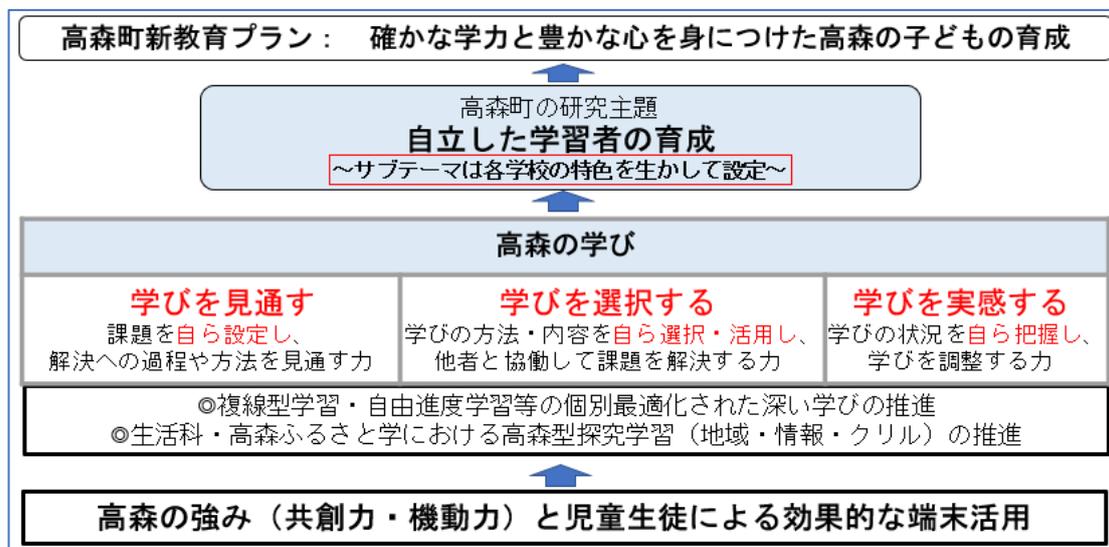
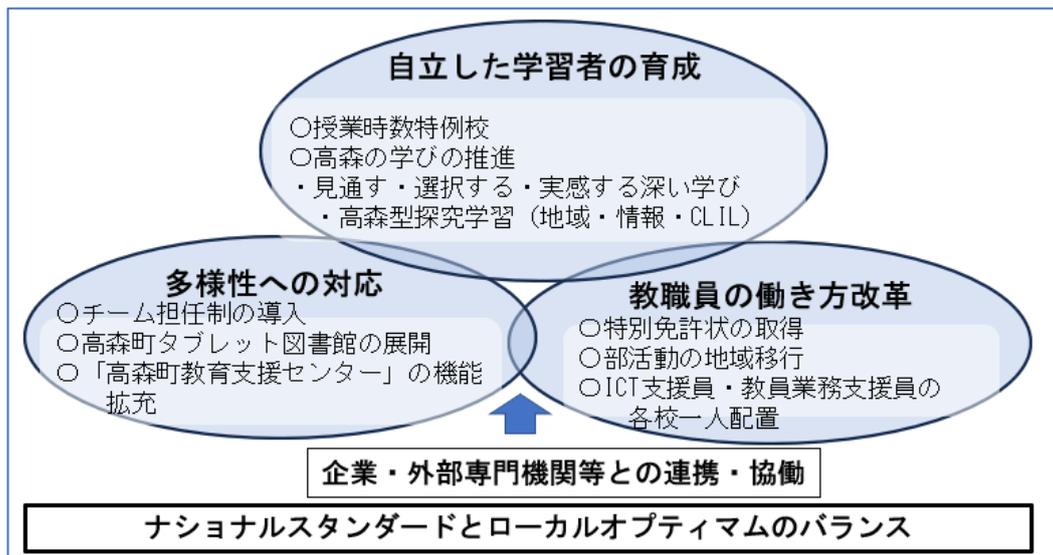
# 【熊本県高森町】1人1台端末の利活用に係る計画

## 1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」が到来しつつあり、新型コロナウイルス感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」にある中で、社会全体のデジタル化、オンライン化、DXの加速の必要性が叫ばれている。

こうした中で、学校教育には、ICTを活用しながら、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできるような「資質・能力」を育成することが求められている。

そのため、高森町では、高森新教育プランのもと、町内3校共通の研究主題『自立した学習者の育成』を図るために『高森の学び』を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実及び高森ふるさと学（総合的な学習の時間）における『高森型探究学習』を推進する。



## 2. GIGA 第 1 期の総括

### **\*第 1 期の成果\***

本町では、平成 30 年度には既に 1 人 1 台の端末環境が実現しており、端末の持ち帰りやオンライン学習が展開されていた。第 1 期 GIGA 端末への更新とともに、クラウド環境が充実したことにより、学習者主体の学びが加速した。

### **\*第 1 期の課題\***

学習の個性化が進むにつれ、クラウドに蓄積された個々のデータから教師が評価・分析する時間の確保が必要であると感じている。

また、情報セキュリティに関する課題が浮き彫りとなり、対策の強化が必要である。

### **\*第 1 期の教訓\***

端末整備だけでなく、教師の指導力向上や教材開発、情報セキュリティ対策など、ソフト面の充実が不可欠であることが示された。

### **\*第 2 期への展望\***

汎用的なクラウドサービスの効果的な活用研究が更に進み、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図られ、児童生徒自らが学びを見通し、学びを選択し、学びを実感することのできるような学習展開が広がることが期待される。

また、教育データを活用した学習分析や指導改善が進み、エビデンスに基づいた教育が実現することが期待される。

さらに、校務における生成 AI の活用から得たことをもとに、児童生徒の活用へと発展することが期待される。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

#### ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ・『高森の学び』～学習者自らが学びを見通し、学びを選択し、学びを実感することのできる複線型授業～を推進する。
- ・各学校の特色を生かし、高森ふるさと学（総合的な学習の時間）を中核に据えた教科等横断的な『高森型探究学習』のカリキュラム編成及び展開を図る。
- ・クラウドを活用した授業と家庭学習の連動を図り、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業を展開する。
- ・指導の個別化を図るために、学習課題を教師・学習者間で確実に共有し、学習者が学びの状況を自ら把握し、学びを調整していくための学習履歴（振り返りシート）の蓄積・活用を図る。

#### ○学びの保障

- ・希望する不登校児童生徒への支援による学びの保障を図るとともに、L-Gate アプリを活用した心の健康観察の定着を図る。

#### ○教育課程全体を通じた情報活用能力の育成

- ・学習者自ら外部専門家との打ち合わせや計画作成をメールやWeb会議、電話等で行う主体的な学びを展開する。
- ・クラウドを活用して学習ログを蓄積・整理し、学びに生かす力の育成を図る。

#### ○1人1台端末の積極的活用

- ・外部専門家等との対面によるオンライン授業やクラウドを活用した非対面での情報のやり取り等効率的・効果的に実践する。
- ・家庭学習の充実を図るために、ドリル教材の学習ログを学習者自身が分析し、自ら学習計画を立てて実行するサイクルの確立を図る。

#### ○情報モラル教育の徹底

- ・端末利用のきまりを年度当初に全家庭に配布し、学校教育全般で情報モラル教育を徹底する。
- ・生成AIの概要やメリット・デメリットについて学習する機会を小学校高学年以上に設定し、授業参観やPTA総会にて保護者への啓発も合わせて行う。

#### ○端末の管理・運用\*

- ・端末の故障や紛失に備え、代替機の準備や保険加入などを検討する。
- ・適切なソフトウェアを導入・管理し、セキュリティ対策を講じる。

#### ○効果測定と改善

- ・児童生徒や教師を対象にアンケート調査を実施し、端末の利活用状況や課題を把握する。
- ・端末の利用履歴や学習データを分析し、より効果的な利活用方法を検討する。

これらの利活用方策は、学校や地域の状況に合わせて柔軟に組み合わせ、実践していくことが重要である。また、1人1台端末の導入は、あくまでも教育手段の一つであり、その効果を最大限に引き出すためには、教師の指導力向上や、児童生徒の情報リテラシー育成も不可欠である。

教育ダッシュボード※1を活用した「個別最適な学び」「主体的な学び」の可視化策や先生方のデジタルデバイト※2、教育情報セキュリティポリシーの周知徹底等が課題と感じている。それらの課題を克服するためにも、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが重要であると考えている。

## 用語解説

- ※1 教育ダッシュボード：生徒たち一人一人の各種「教育データ」（学習状況・成績・出欠席等）を収集・可視化し分析を行う教員用システム
- ※2 デジタルデバイド：情報格差、この場合はシステム利用者によるスキルの格差を指す